

別添資料45：有明海北西部の底質環境と底生動物の調査地点

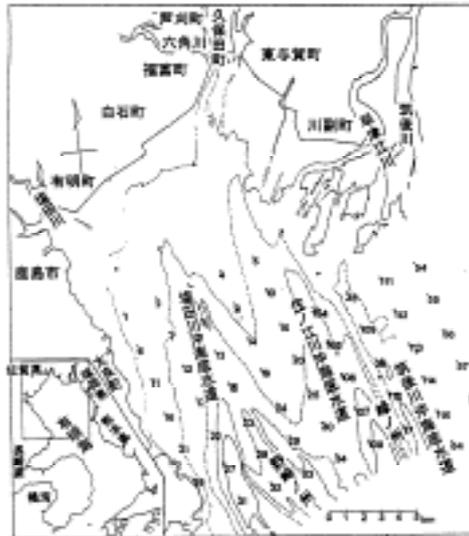
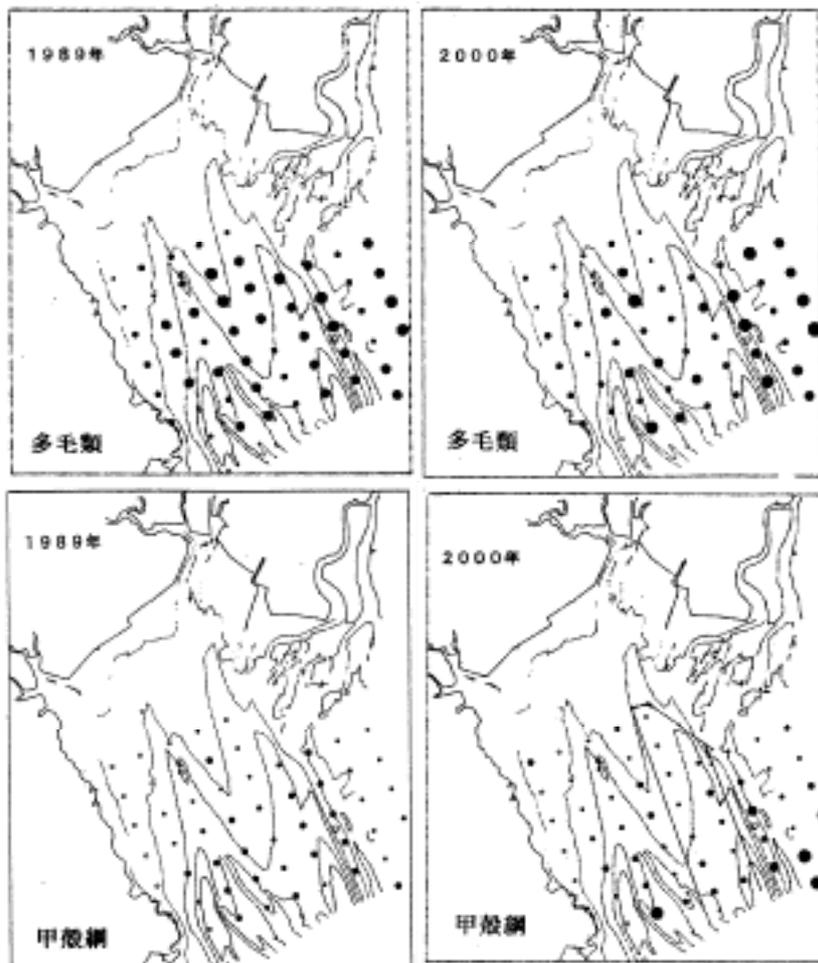


図 48 調査地点：有明海北西部の底質環境と底生動物

別添資料46：有明海北西部における多毛類、甲殻類の調査結果

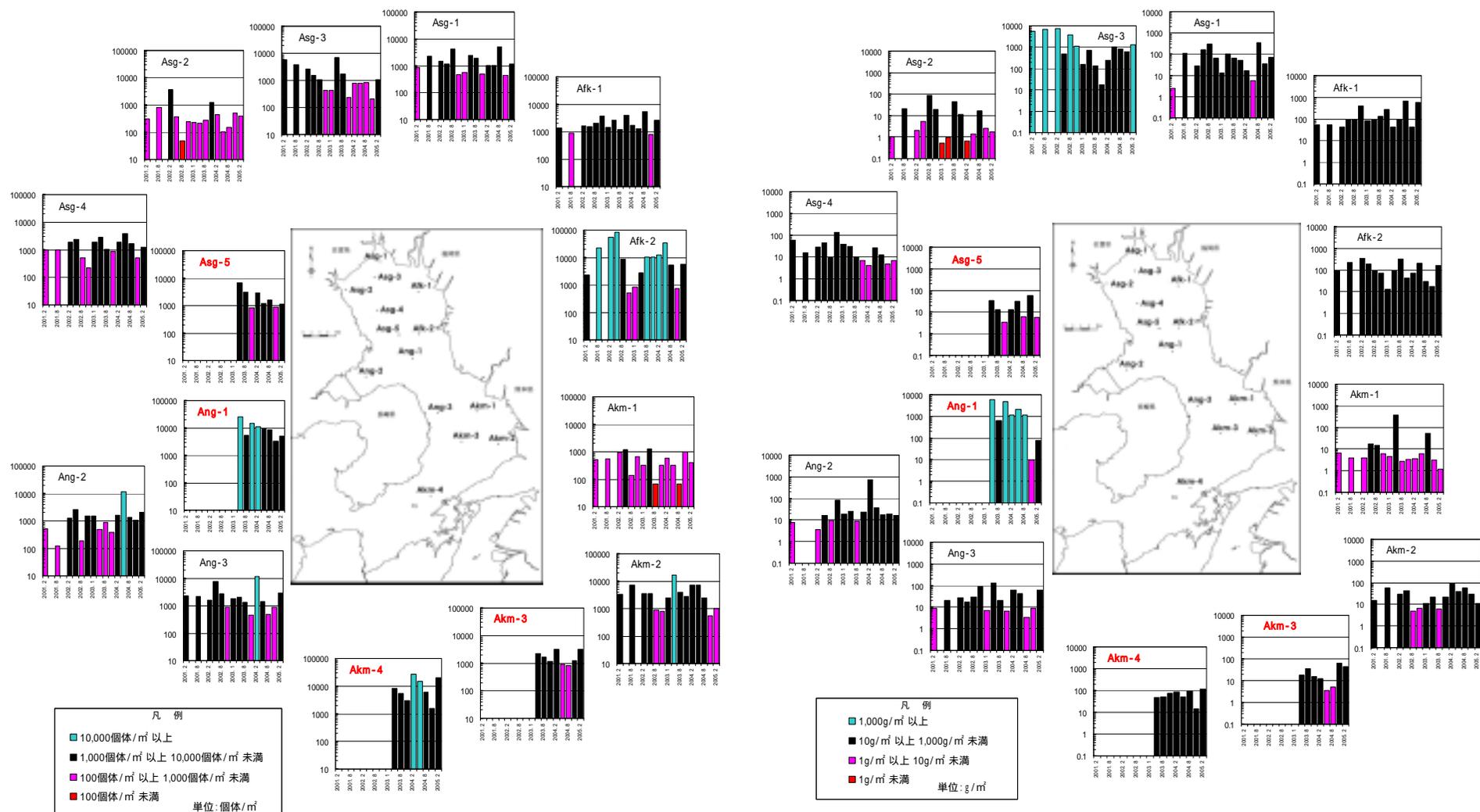


資料：1.古賀秀昭(1991):有明海北西海域の底質及び底生生物,佐賀県有明水産試験場研究報告,13号,pp.57-79
 2.大隈斉,江口泰蔵,川原逸朗,伊藤史郎(2001):有明海湾奥部の底質及びマクロベントス,佐賀県有明水産振興センター研究報告,20号,pp.55-62

図 49 有明海北西部の底生動物調査結果(多毛類、甲殻綱)

別添資料47：2000年以降の有明海の底生生物調査結果

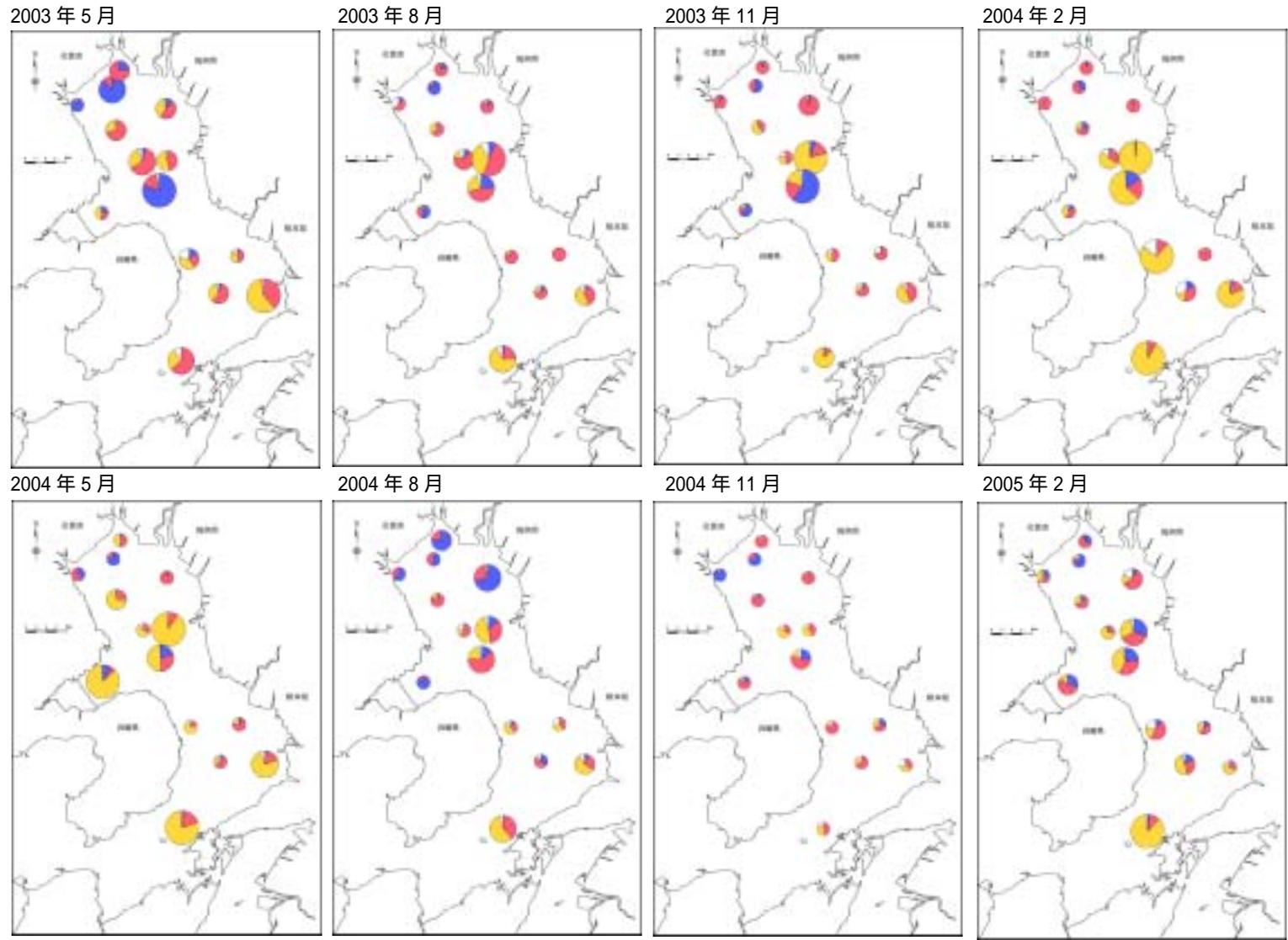
(55)



注) グラフ中の赤字の調査点は、2003年5月以降に調査が行われた調査点を示す。

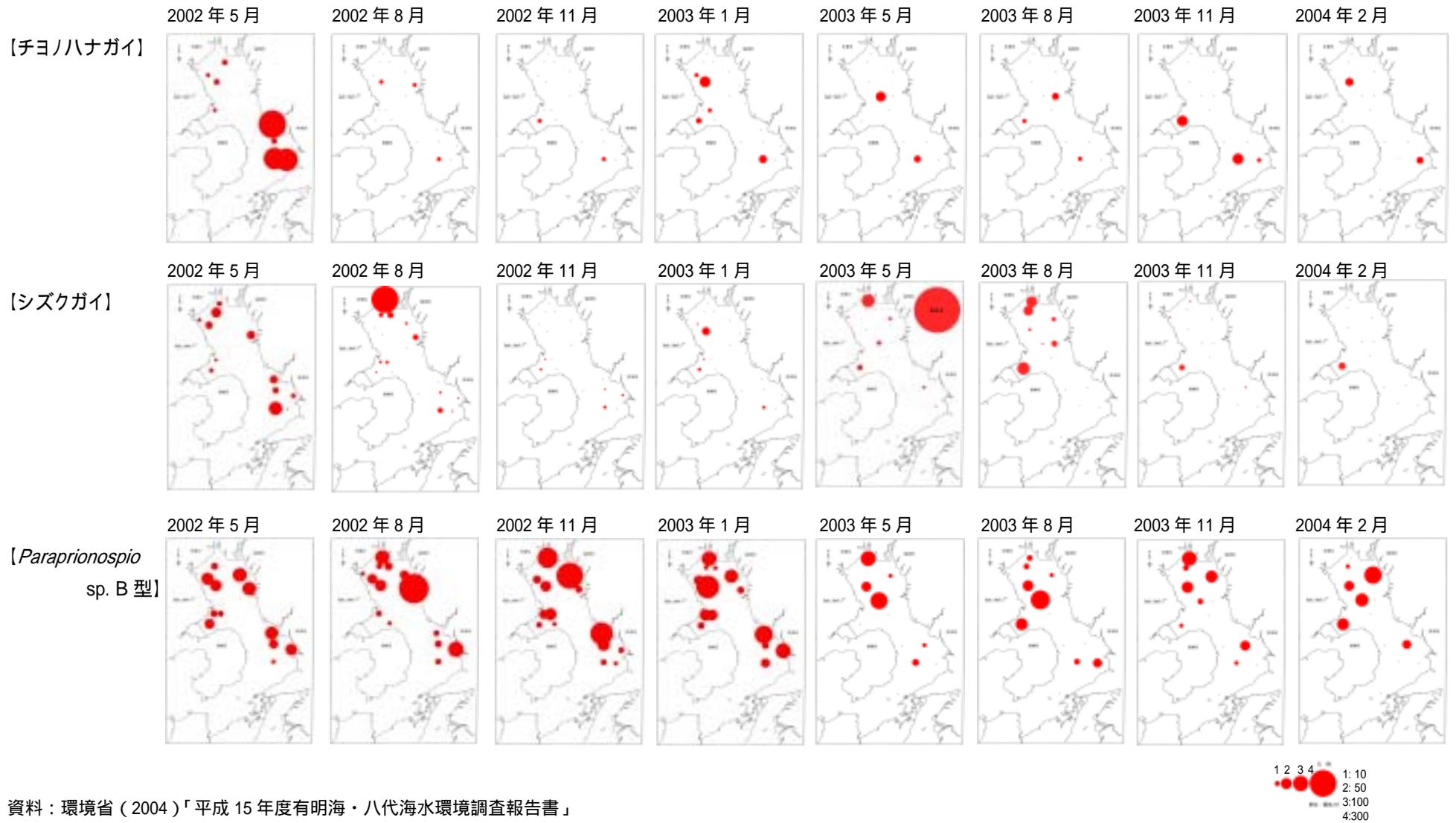
資料：環境省(2005)「平成16年度有明海・八代海水環境調査報告書」

図 50 有明海におけるマクロベントスの経年変化(左：合計個体数、右：合計質量)



資料：1.環境省（2005）「平成 16 年度有明海・八代海水環境調査報告書」
2.環境省（2006）「平成 17 年度有明海・八代海水環境調査報告書」

図 51 有明海におけるマクロベントスの分類群別個体数分布(上段：2003 年度、下段：2004 年度)



資料：環境省（2004）「平成15年度有明海・八代海水環境調査報告書」

図 52 富栄養、低酸素環境指標種の出現状況(上段：チヨノハナガイ、中段：シズクガイ、下段：*Paraprionospio* sp. B 型)

別添資料48：ノリの主な病気

表 15 ノリの主な病気

病名	原因	対処
赤ぐされ病	菌類の1種	摘み取り、高吊り
壺状菌病	菌類の1種	(酸処理) 入庫
スミノリ	針状細菌	酸処理
色落ち	植物プランクトン	
バリカン	淡水その他海洋条件	
アオノリ	緑藻の混生	酸処理

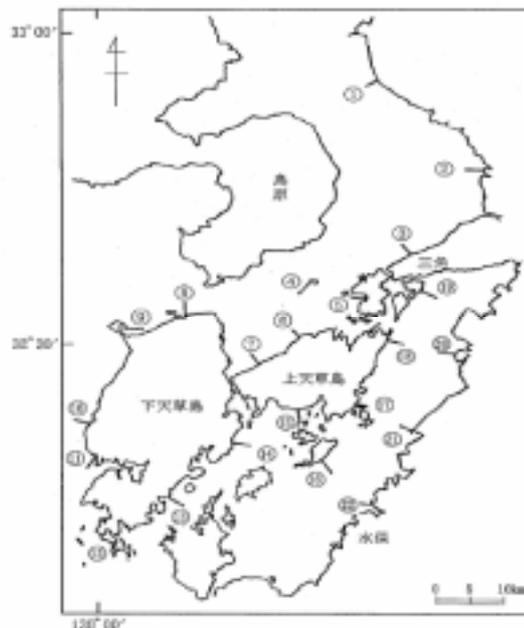
資料：鬼頭鈞(2003)「第6回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-2 有明海の高苔養殖」

別添資料49：潜水採刈調査による海域別平均湿重量の比較

表 16 潜水採刈調査による海域別平均湿重量の比較

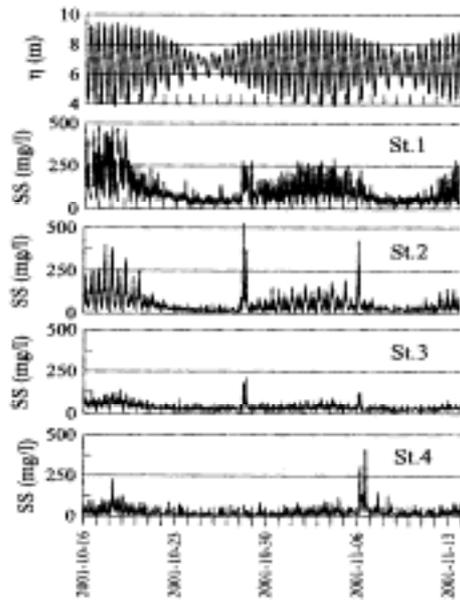
	熊本有明 (1, 2)	天草有明 (3~7)	天草西		八代湾奥 (18~20)	熊本八代 (21, 22)	天草八代		全海域
			北(8, 9)	南(10~12)			北(14~17)	南(13)	
1978年5月 (繁茂期)	113.3	599.2	787.0	245.2	171.4	481.3	471.7	320.0	418.7
1978年8月 (衰退期)	18.0	335.1	716.2	435.2	32.4	429.8	47.0	61.8	257.1
2000年1月 (幹長期)	2.0	86.4	140.1	98.7	72.5	41.3	86.8	1.0	75.5

注) 表中()内は右図に示す測線番号を表す。



資料：大和田紘一, 本城凡夫[八代海検討グループ](2006)「第23回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-2-3 八代海に関する検討」

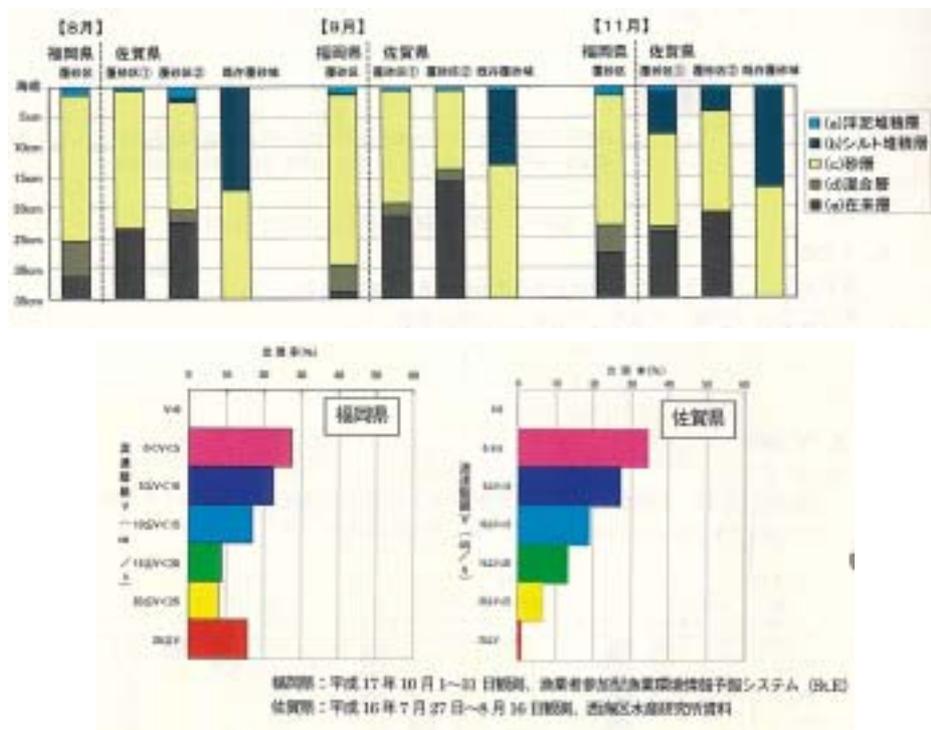
別添資料50：底面付近の SS 濃度と潮汐の関係



資料：中川康之(2003)：有明海における底質輸送現象のモデル化, 港湾空港技術研究所報告, 第 42 巻, 第 4 号, pp.25-42

図 53 各観測点での底面付近の SS 濃度と潮汐の関係

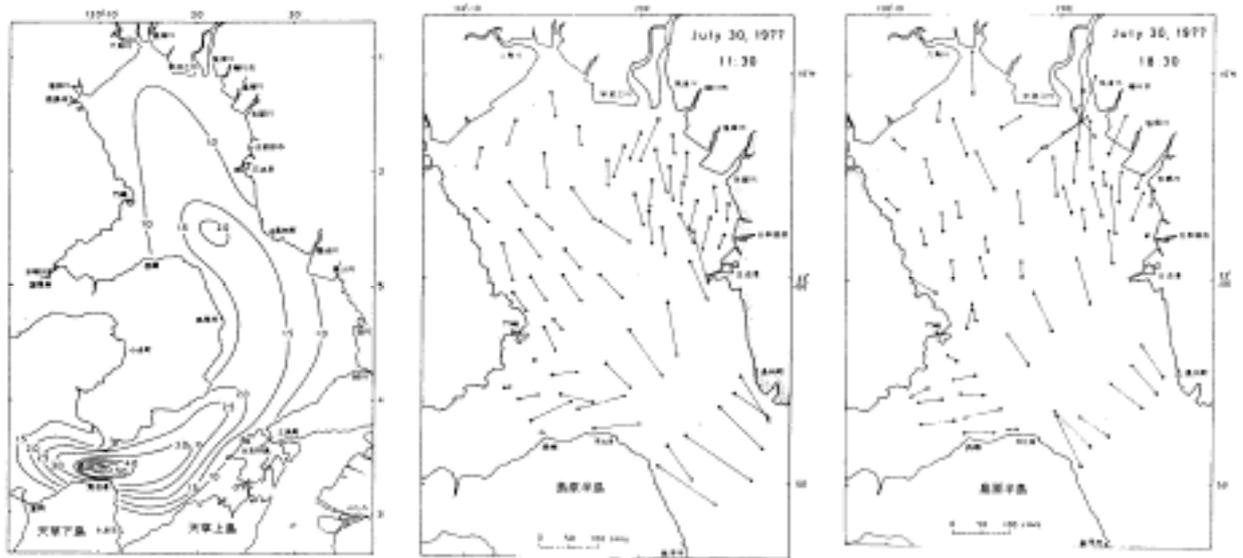
別添資料51：流速出現頻度と浮泥の堆積状況



注) 上図は覆砂域における底質の層厚、下図は既往の調査結果による流速の比較を示す。
資料：水産庁(2006年)「第20回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-5 有明海改善のための実証試験について」

図 54 流速出現頻度と浮泥の堆積状況

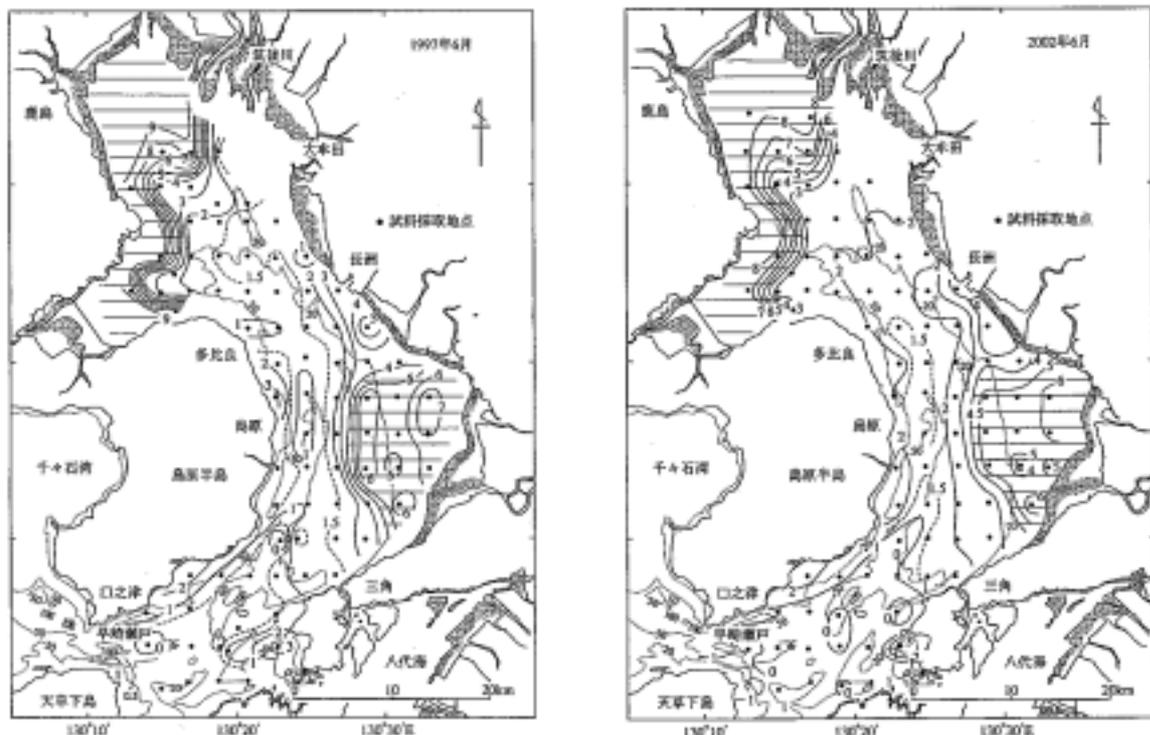
別添資料52：潮流と底質の関係



注) 左図は大潮期平均流速分布を、中図は61隻の定置船による一斉同時観測から得られた下げ潮最強流速の分布(1977年7月30日)を、右図は61隻の定置船による一斉同時観測から得られた上げ潮最強流速の分布(1977年7月30日)を示す。

資料：日本海洋学会沿岸海洋研究部会編(1985)「日本全国沿岸海洋誌」, p.838-843

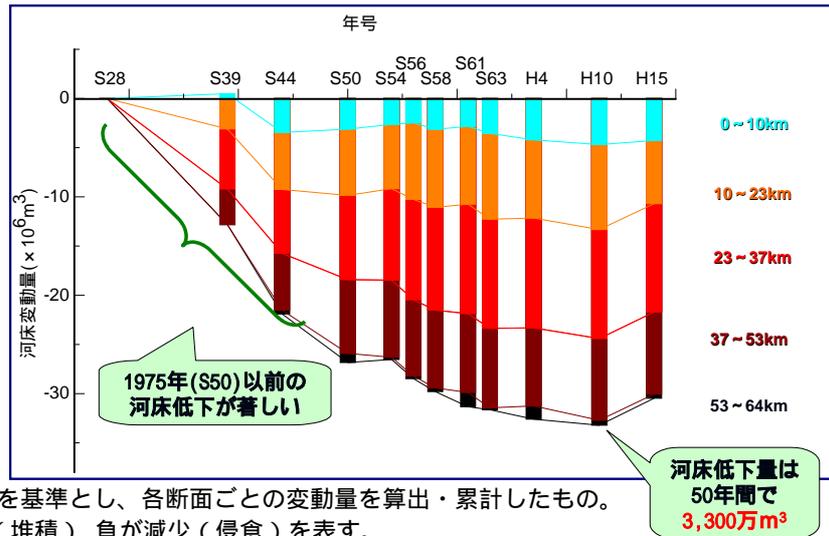
図 55 有明海の流速分布



資料：東幹夫(2006)：諫早湾干拓事業に伴う有明海異変に関する保全生態学的研究，有明海異変と諫早湾干拓の関連解明に向けて、pp.131-147

図 56 有明海全域海底堆積物の中央粒径値 Md 等値線図の1997年6月と2002年6月の比較(0~9は、破線・点線の数字は水深m)

別添資料53：筑後川流域の土砂動態

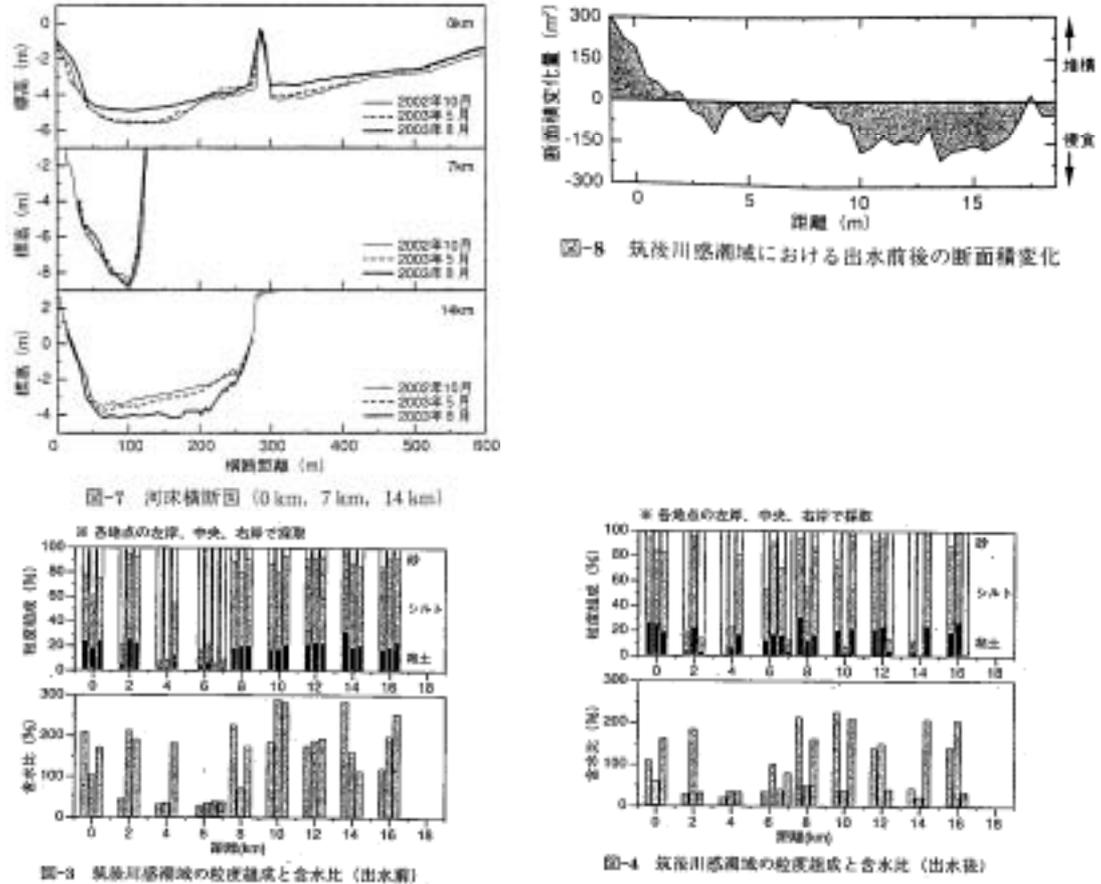


注) 1. 昭和 28 年を基準とし、各断面ごとの変動量を算出・累計したもの。
 2. 正が増加（堆積） 負が減少（侵食）を表す。
 3. 河床変動量の内訳には、河床の低下量のみでなく、河道拡幅量も含まれている。

資料：福岡捷二（2005）「第 13 回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-3 有明海・八代海における河川の影響について」

図 57 筑後川の河床変動量の経年変化

別添資料54：筑後川感潮域における土砂動態



注) 左上図は河床横断（0km, 7km, 14km）、右上図は筑後川感潮域における出水前後の断面積変化、左下図は筑後川感潮域の粒度組成と含水比（出水前）、右下図は筑後川感潮域の粒度組成と含水比（出水後）を示す。

資料：横山勝英, 河野史郎, 山本浩一（2005）: 有明海湾奥部の地形・底質分布に関する現地調査, 海岸工学論文集 VOL. 52 NO. 2; PAGE. 936-940

図 58 筑後川感潮域における土砂動態